

令和 3 (2021)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	ウイルス駆動の海洋低次生態系の時計仕掛けと海洋への影響 解明
研究代表者	吉田 天士 (京都大学・大学院農学研究科・教授) ※令和 3 (2021)年 7 月末現在
研究期間	令和 3 (2021)年度～令和 7 (2025)年度
科学研究費委 員会審査・評価 第二部会にお ける所見	<p>【課題の概要】</p> <p>海洋一次生産者のラン藻・藻類はウイルス感染することで、宿主の死滅に伴い有機物の漏出が起こり、海洋の物質循環・生態系に影響を及ぼす。</p> <p>本研究は、ウイルス感染の周期性が、時計仕掛けで生じ、どのように低次生態系へ波及するのか、さらには海洋システム全体へどのように影響するのか、そのメカニズムを解明して、海洋生態系構造の理解を目指す意欲的な研究である。</p> <hr style="border-top: 1px dotted black;"/> <p>【学術的意義、期待される研究成果等】</p> <p>本研究は、周期性のウイルス感染が海洋における物質循環、生態系にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにすることを目指しており、独創的な研究である。</p> <p>低次生態系への影響解明にとどまらず、魚類仔稚魚成長などの高次生態系への影響を明らかにすることで、海洋管理・施策の在り方など社会に与える波及効果も大いに期待される。</p>